

■3 教育に関する事項

本学が全学的に推進する教学改革にあたって、2011年度は5長グランドデザインに掲げる「教育にかかる基本方針」に基づき、教育の質保証や教育力の向上に向けた優先課題についての検討を実施段階に移すべく、以下のとおり積極的に取り組んだ。

2010年度では、5長アクションプラン「学士課程教育の充実と学位の質保証」の中で「教養教育のあり方の検討」を明確に位置付け、2011年度からは教養教育改革についての本格的な検討を始めた。具体的には、各学舎に設けた検討委員会を中心にして、教養教育の再編に向けた新たな運営体制や開設科目群等に関して検討を進め、2012年度はこれを全学的に実施段階へと移す予定である。

また、個性的で充実した教育を実現するため、教育システムの再構築に向けた個別課題のうち、本学における「入学前教育」のあり方に関して検討した。その結果、本学への帰属意識や適応の程度、学習意欲の向上といった態度形成を主眼とした全学共通の取組である「入学準備サポートプログラム」を2013年度入学生から実施し、教育力の向上をめざすこととした。

一方、教育の質保証の観点から、各教育課程が設定する教育目標に沿った成果と「学位授与の方針」（学生に保証する基本的な資質）との関係性について、これを検証する仕組の構築に向けて検討した。各学部がこれらを検証する仕組の構築に関して主体的に取り組む他、複数学部における共通の取組として「学位授与の方針」の達成度調査を卒業生対象に実施する等、その分析を通して各学部が教育内容・方法等の改善に取り組んだ。

また、2011年度から実施する半期15回授業の実施に関わって、各学期の定期試験期間の短縮に伴う諸課題について検討し、適切な定期試験実施に向けた補助監督体制の強化、大教室における学生の速やかな入替え、不測の事態を想定した事務支援体制の構築等について対応を図った。

FD活動については、学生による学期末の授業アンケートをはじめ、学生による学期半ばの授業アンケート、指定・自己応募研究プロジェクト、FDフォーラム、FDサロン等を実施した。

特色ある教育の取り組みとしては、2011年度龍谷GP（Ryukoku Good Practice）として7件の事業を実施し新たに2012年度龍谷GPとして1件の事業を採択した。

大学院教育については、中央教育審議会等の高等教育行政の動向も踏まえつつ諸課題の検討を進めるとともに、グローバル化社会における本学大学院教育の再構築に向けて第5次長期計画アクションプランの実施計画案に基づき具体的実施案策定に向けて検討をおこなった。